

製品名: ADAMTS-2 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab06601**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	100kDa

抗原情報

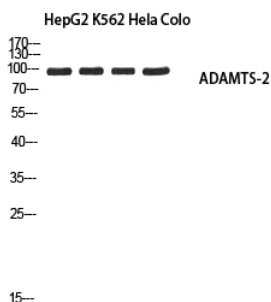
遺伝子名	ADAMTS2
別名	ADAMTS2; PCINP; PCPNI; A disintegrin and metalloproteinase with thrombospondin motifs 2; ADAM-TS 2; ADAM-TS2; ADAMTS-2; Procollagen I N-proteinase; PC I-NP; Procollagen I/II amino propeptide-processing enzyme; Procollagen N-endopeptidase; pNPI
遺伝子 ID	9509.0
SwissProt ID	O95450
免疫原	ADAMTS-2 由来の合成ペプチド。アミノ酸範囲: 1140-1220

背景

この遺伝子は、ADAMTS (トロンボスポンジンモチーフを有するディスインテグリンおよびメタロプロテアーゼ) タンパク質ファミリーのメンバーをコードします。このファミリーのメンバーは、プロペプチド領域、メタロプロテアーゼドメイン、ディスインテグリン様ドメイン、およびトロンボスポンジン 1 型 (TS) モチーフなど、いくつかの異なるタンパク質モジュールを共有しています。このファミリーの各メンバーは C 末端 TS モチーフの数が異なり、中には独自の C 末端ドメインを持つものもあります。コードされているプレプロタンパク質は、タンパク質分解によって成熟したプロコラーゲン N プロテアーゼを生成します。このプロテアーゼは、線維性プロコラーゲン I~III 型および V 型の N プロペプチドを切除します。この遺伝子の変異は、劣性遺伝性の結合組織疾患であるエーラス・ダンロス症候群 VIIIC 型を引き起こします。選択的スプライシングにより複数の転写産物バリエーションが生じ、そのうちの少なくとも 1 つはタンパク質分解活性を示すアイソフォームをコードします。触媒活性: コラーゲン鎖アルファ 1(I) の N プロペプチドを Pro-I-Gln で、アルファ 1(II) とアルファ 2(I) の N プロペプチドを Ala-I-Gln で切断します。注意: ADAMTS3 と呼ばれることもあります。補因子: サブユニットあたり 1 個の亜鉛イオンを結合します。疾患: ADAMTS2 の欠陥が、エーラス・ダンロス症候群 7C 型 (EDS7C) [MIM:225410] の原因です。EDS は、皮膚の過伸展、組織の脆弱性による皮膚の萎縮性瘢痕、および関節の過弛緩を特徴とする結合組織疾患です。EDS7C は、極めて脆弱な組織、皮膚の過伸展、およびあざができやすいことが特徴です。顔面皮膚には、皮膚弛緩症 (cutis laxa syndrome) のように、多数のひだが存在する。ドメイン: スペーサドメインと TSP タイプ 1 ドメインは、細胞外マトリックスとの緊密な相互作用に重要である。機能: I 型および II 型コラーゲンのプロペプチドを線維形成前に切断する。III 型コラーゲンには作用しない。コラーゲン生合成における役割とは独立した発達段階においても役割を果たす可能性がある。PTM: 前駆体はフーリンエンドペプチダーゼによって切断される。類似性: ディスインテグリンドメインを 1 つ含む。類似性: ペプチダーゼ M12B ドメインを 1 つ含む。類似性: PLAC ドメインを 1 つ含む。類似性: TSP タイプ 1 ドメインを 4 つ含む。サブユニット: 多量体複合体に属する可能性がある。XIV 型コラーゲンに特異的に結合する。組織特異性: 皮膚、骨、腱、大動脈で高発現し、胸腺と脳では低発現する。、

研究分野

画像データ



ADAMTS-2 抗体を用いた HepG2 K562 Hela Colo のウェスタンブロット分析。二次抗体は 1:20000 に希釈されました。